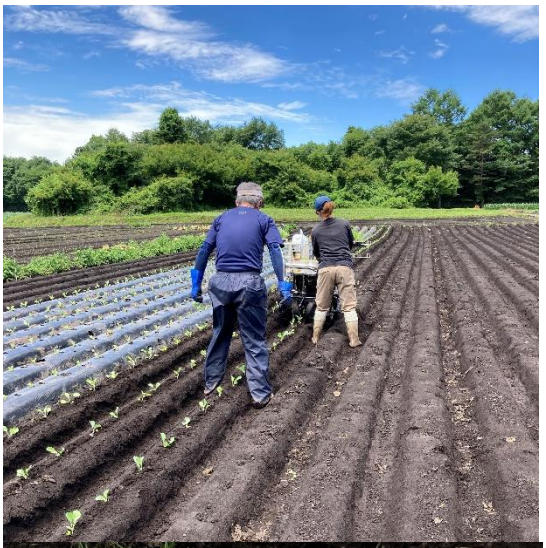
梅雨期における葉洋菜の計画定植のための検討について

昨年（令和２年）は、７月の長雨によって、キャベツの定植が計画通りに進まず、秋の出荷量が大幅に減少しました。その対策として、長雨時でも植付けを行える栽培体系づくりが求められています。

そこで、７月７日に軽井沢町油井地区において、１作目のレタスで使用したマルチと畝をそのまま利用して、２作目にキャベツ栽培を行う栽培体系の検討を始めました。慣行では、定植前に元肥を入れ、耕運し畝を立てますが、試験区では、育苗培土にマイクロロング肥料を混和し、セル成型育苗を約１カ月行い、半自動の野菜定植機を用いて、マルチの上に定植を行いました。

また、試験区では、畝をそのままでマルチを除去した区も設けたほか、セル成型育苗においては。マイクロロング肥料無しの通常苗も植え付けました。今後、比較検討を進めてまいります。

試験当日の朝も降雨で、試験実施が心配されましたが、見事に梅雨の晴れ間となり、予定通りに試験設置が出来ました。



上２枚：令和３年７月７日　半自動定植機によるキャベツ定植の様子（左側は、マルチ区、右側は、マルチ除去区（定植中）

下：200 穴トレイ利用　左側：マイクロロング混和した苗　右側：マイクロロング無しの苗（定植時の苗の様子）掲載